

## 第1号議案

# 平成28年度 事業報告

### 1. 通常総会

第57回通常総会は、平成28年5月23日（月）アルカディア市ヶ谷において開催し、出席者は委任状とも1,461名で、定款第17条に規定する定足数に達した。

定款第15条の定めにより、本総会の議長は会長がこれにあたるとしており、西山会長を議長とし、議事の審議にあたった。

#### (1) 議 事

議事録署名人については、定款第19条により、議長および議長が指名する出席者2名以上としており、出席正会員の中から宇治公隆氏および手塚正道氏の2名が指名され、平成27年度事業報告、同収支決算報告、役員改選はいずれも原案どおり承認議決された。

また、平成28年度事業計画、同収支予算についての報告があり、いずれも了承された。

#### (2) 名誉会員推挙

岡本 伸殿、桑山 誠殿、辻 幸和殿、宮本征夫殿が名誉会員に推挙された。

#### (3) プレストレストコンクリート工学会賞授与

平成27年度（第43回）受賞は論文部門2件、作品部門5件、技術開発部門1件、施工技術部門2件の計10件である。

#### ○ 論文部門

- フライアッシュコンクリートのPC橋梁への適用に関する  
実用化研究  
(会誌第57巻5号)  
山村 智 殿  
桜田 道博 殿  
小林 和弘 殿  
鳥居 和之 殿
- 東北発 PC道路橋の長寿命化を目指して  
(会誌第57巻2号)  
岩城 一郎 殿

#### ○ 作品部門

- カンボジア王国 つばさ橋  
カンボジア王国 公共運輸事業省 殿  
三井住友建設(株) 殿  
(株)長大 殿  
(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル 殿



## 4. 委員会

### 【常設委員会】

#### (1) 総務委員会

総務委員会を3回開催した。平成28年6月に役員の職務分担について検討を行った。平成29年3月には、役員人事、名誉会員推挙について検討し、平成29年度事業計画案および同収支予算案を審議した。4月には、平成28年度事業報告案ならびに同収支決算案を審議した。

会員増加推進小委員会を1回開催し、学生の入会を推進するため、学生会員の年会費を平成29年度より年間5,000円から年間2,000円に改定することを10月度理事会に答申した。また、積極的に入会の勧誘を行うため、大学・高等専門学校の非会員の教員向けに入会案内を送付した。

#### (2) 会誌編集委員会

委員会を11回（8月を除く毎月）開催した。会誌「プレストレストコンクリート」を特集号形式の企画と投稿による一般号の編集を実施し、年6回発行（隔月）した。特集号は、2号「プレキャスト技術」、4号「建築特集」、そして6号「PC技術の海外展開」をそれぞれ企画編集した。会誌の「講座」シリーズは、「PC技術者のための構造解析入門」を終え、「知っておきたいPC材料」の連載をスタートした。

論文審査小委員会は、会誌論文投稿に関する審査システムの整備を行うため、ホームページに論文投稿用の専用メールアドレスを設け、一般投稿用と論文投稿用に分けることを行った。パンフレット作成部会は、学生会員募集のフライヤーを作成した。

#### (3) シンポジウム実行委員会

委員会を5回、全体会議を1回、幹事会を1回、総務・広報・学術・現地WGを合計12回開催し、福岡県北九州市の北九州国際会議場および西日本総合展示場（AIM）における第25回シンポジウムの企画と運営を行った。また、平成30年の開催地を愛媛県松山市で行うことを決定した。平成28年11月からは、兵庫県神戸市の神戸ファッションマートで開催する第26回シンポジウムの準備に取りかかった。

#### (4) PC技術規準委員会

平成28年度は、既刊の本工学会技術規準等を定期的に見直していくため、規準改訂小委員会の立ち上げを中心に委員会を2回、幹事会を2回開催した。平成28年12月に規準改訂小委員会の設置が承認された。

##### 1) 規準・指針の国際展開小委員会

Bulletin 30 「Cable Supported Structures」の改定作業、抄訳を継続して行った。

##### 2) PC工学会制定試験法管理小委員会

本工学会が独自に制定する試験方法、管理番号の付け方を審議するため、平成27年度に新規委員会として設置した。「PEシーースを用いたPC橋の設計施工指針（案）」への適用

をもって、平成28年4月に委員会を終了した。

### 3) PC橋の維持管理マニュアル作成委員会

斜張橋，エクストラード橋および複合橋も含めたPC橋の維持管理に関する具体的な手法を明らかにしたマニュアル策定を目的とした委員会であり，平成27年度から継続して委員会を実施しており，平成28年度には委員会2回，幹事会5回開催し，マニュアルの全体構成および各章の具体的な記述内容について討議を行った。

### (5) PC鋼材委員会

委員会を1回開催し，(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会東北支部「PC橋長寿命化委員会」より，高耐久PC桁についての取り組み内容に関する活動報告があった。また，プレグラウトPC鋼より線，アンボンドPC鋼棒などの工場加工型防食PC鋼材およびステンレスPC鋼材の活用事例に関する報告があり，討議を行った。

### (6) PC技士委員会

委員会を1回，各小委員会を8回開催し，第24回プレストレストコンクリート技士試験に関する諸準備を整え，平成28年10月16日(日)に東京，大阪，福岡の3会場において一斉に試験を実施し，12月12日に合否の判定を行った。

### (7) コンクリート構造診断士委員会

委員会を2回，各小委員会ならびに各WGを14回開催し，諸準備を整えて第10回コンクリート構造診断技術講習会を東京，大阪，福岡の3会場にて開催した。また，第10回コンクリート構造診断士試験を平成28年7月10日(日)に東京，大阪，福岡の3会場で開催し，10月5日に合否の判定を行った。

平成29年7月11日開催の第1回委員会において，現行の受験資格要件であるコンクリート構造診断技術講習会(全国3会場開催)の受講を平成29年以降，受験機会の平等ならびに受験者の負担軽減の目的からweb上でのeラーニングに移行することを決定し，これを7月度理事会に答申した。

### (8) PC技術講習会委員会

第45回PC技術講習会のテーマを「生産性向上と維持管理・更新の時代に求められるPC技術」として6題の講演題目を設定した。また，全国9会場において，各地域の有識者による特別講演を設定した。

### (9) 国際委員会

#### 1) 国際対応小委員会

「PC工学会の国際化を進めるための企画・提言を行うこと，ならびに日本のPC技術を海外へ情報発信すること」を目的に，平成28年度は小委員会を5回開催し，以下の活動を行った。

- ① 工学会英語版ホームページの更新
- ② 日米におけるPC橋の維持管理に関するセミナーの開催（平成28年10月18日）
- ③ ミャンマーにおける橋梁セミナーへ参加（平成29年3月15日）
- ④ 海外学協会との連携について検討
- ⑤ PCシンポジウムの海外からの特別講演者招聘計画および対応
- ⑥ PC技術講習会テキストの作成および講習会講師

## 2) 国際活動関係

### ① *fib* Presidium

平成28年3月4日～6日、ドイツのカールスルーエ工科大学で開催されたPresidium（最高幹部会）に春日昭夫理事が出席、平成28年6月17日、スペインのマドリードで開催されたPresidiumに春日昭夫理事が出席した。また、平成28年8月27日、28日、東京大学伊藤国際学術研究センターで開催されたPresidiumに、春日昭夫理事が出席し、本工学会も会議を支援した。

### ② *fib* 総会

平成28年11月20日に南アフリカのケープタウン大学で開催された総会に、春日昭夫理事が出席した。

### ③ *fib* 理事会

平成28年11月19日に南アフリカのケープタウン大学で開催された理事会に、春日昭夫理事が出席した。

### ④ *fib* 委員会

平成28年3月21日、フランスのパリで開催されたCommission 1に春日昭夫理事が出席し、平成28年6月15日にスペインのマドリード工科大学で開催された委員長会議に春日昭夫理事が出席した。また、平成28年10月14日、15日にスイス連邦工科大学ローザンヌ校で開催された *fib* モデルコード2020の委員会（Commission 10）に春日昭夫理事が副委員長として出席した。

### ⑤ *fib* シンポジウム

平成28年11月21日～23日、南アフリカのケープタウンで開催された *fib* シンポジウムに、本工学会は二羽淳一郎理事を団長、下村 匠理事を副団長として組織された調査団を後援して会員の便宜を図った。なお、調査団の参加は団長以下19名であった。

### ⑥ *fib* PhDシンポジウム

平成28年8月29日～31日、東京大学の伊藤国際学術研究センターで開催された *fib* PhDシンポジウムを本工学会は共催し、多数の本工学会員が運営にあたった。

## (10) 工学会賞選考委員会

第44回（平成28年度）プレストレストコンクリート工学会賞選考のため、2回の委員会を開催した。平成29年3月31日開催の第2回目の委員会の討議を経て、論文部門2件、作品部門5件、技術開発部門3件、施工技術部門1件を受賞候補に選出し、これを4月度理事会に答申した。

(11) 公募研究課題選定委員会

平成28年度に会員から公募した研究課題を1件選出し、これを3月度理事会に答申し、採択された。

【公募研究委員会】

(1) 高強度鉄筋緊張P R Cの研究と設計指針の作成委員会

建築の分野において高強度鉄筋を緊張したプレテンションP R C部材の設計指針の作成を目的とする。委員会活動は平成26年6月より始め、最終年度の平成28年度は指針の作成のため、委員会を6回開催した。平成28年10月に開催された第25回シンポジウムのワークショップにおいて「高強度鉄筋緊張P R C構造の設計指針・同解説（案）」の内容を紹介した。平成28年度末に同設計指針・同解説（案）を策定し、委員会を終了した。

(2) 大規模自然災害に対応可能なP C構造に関する研究委員会

過去の大自然災害に関する文献・資料の調査等をもとに防災施設へのP C構造物の活用を課題に検討してきた。活動3年目の最終年度であり、委員会を4回開催した。平成28年6月に全国9会場で開催された第44回P C技術講習会において「大規模自然災害へのP C構造の貢献」と題する講演を行った。平成29年1月27日に神奈川県と津波防災についての意見交換を行った。平成29年3月3日にP C防災セミナーを開催した。

【受託研究委員会】

(1) 既設ポストテンション橋のP Cグラウト問題対応委員会

既設ポストテンション橋の健全度および損傷の実態把握、P Cグラウト充填調査、P C鋼材破断非破壊検査、補修および補強方法を整理し、平成28年3月に「(仮称)既設ポストテンション橋のP C鋼材の調査および補修・補強指針(案)」を取りまとめた。幹事会を1回開催し、平成28年9月に「既設ポストテンション橋のP C鋼材調査および補修・補強指針」の発刊に伴う講習会を9月15日(木)大阪：建設交流館、9月26日(月)東京：日本薬学会会長井記念ホールで開催し、委員会を終了した。参加者はそれぞれ156名、155名であった。指針の発刊部数は1,000部である。

(2) 更新用プレキャストP C床版技術検討委員会

更新されたプレキャストP C床版が耐久的で橋梁全体としてのライフサイクルコストが最適となること、供用中の道路橋の床版を安全かつ短期間に更新すること、優れたP C技術が正当に評価されること、および設計施工の品質確保を図ることなどを目的に平成27年1月より委員会活動を実施し、平成28年3月に「更新用プレキャストP C床版技術指針」を策定した。幹事会を2回開催し、指針発刊に伴う講習会を平成28年7月20日(水)東京：日本薬学会会長井記念ホール、7月21日(木)仙台：仙台国際センター、7月26日(火)大阪：建設交流館の全国3会場で開催し、委員会を終了した。参加者はそれぞれ125名、41名、81名であった。指針の発刊部数は1,000部である。

### (3) 更新用プレキャストPC床版技術検討委員会（その2）

「更新用プレキャストPC床版技術指針」の更なる活用や鋼橋床版更新事業の効率的かつ円滑な推進を図ることを目的に、この技術指針を補完する具体的なプロセスを盛り込んだ実施要領の必要性が認識され、本委員会を設置した。「更新用プレキャストPC床版設計施工要領（仮称）」を策定することを目的に委員会を1回、幹事会を3回開催した。

#### 【特別研究委員会】

##### ・プレストレストコンクリートサステナビリティ委員会

サステナビリティ社会に向けたプレストレストコンクリートの役割、課題、目指すべき事業のあり方、技術開発の方向性等について、サステナビリティ評価・目標検討WG（WG1）とPC技術の調査・分析WG（WG2）の視点で活動した。幹事会を4回、WG2を2回開催した。第44回PC技術講習会において、プレストレストコンクリートサステナビリティ宣言（試案）と活動状況を報告し、参加者から試案に対する意見を徴収した。これらの意見を踏まえて、最終的にプレストレストコンクリートサステナビリティ宣言（案）をとりまとめ、関連する資料集を作成した。

## 5. 講習会等事業

### (1) 第44回PC技術講習会

第44回PC技術講習会は、「生産性向上へむけたPC技術の展開」をテーマとし、平成28年6月3日（金）東京：江東区文化センターを皮切りに、6月10日（金）大阪：朝日生命ホール、6月14日（火）広島：広島市西区民文化センター、6月15日（水）高松：ホテルパールガーデン、6月17日（金）北海道：ホテル札幌ガーデンパレス、6月23日（木）名古屋：ウィルあいち、6月24日（金）新潟：新潟県自治会館講堂、6月28日（火）仙台：イズミティ21、6月30日（木）福岡：福岡国際会議場、の全国9会場において開催した。参加者は、延べ2,192名であった。

### (2) プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム

平成28年10月20日（木）・21日（金）の2日間にわたり、福岡県北九州市の北九州国際会議場および西日本総合展示場（AIM）において、「第25回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」を開催した。

アメリカからSDRエンジニアリングコンサルタンツ社長のDr. Mohsen A. Shahawy氏、京都大学学際融合教育研究推進センターインフラシステムマネジメント研究ユニット特任教授の宮川豊章氏による特別講演と、146題の論文、報告ならびに研究紹介の発表が行われた。また、40団体による技術展示の実施、ワークショップでは3題が報告され、さらには、優秀講演賞18名の表彰を実施した。

参加者は627名で法人正会員、賛助会員のほか関係諸団体を併せ49団体から後援があった。

### (3) 日米におけるPC橋の維持管理に関するセミナー

平成28年10月18日（火）、アルカディア市ヶ谷において、アメリカからDr. Mohsen A.

Shahawy氏を迎え、日米のP C橋の維持管理における現状と知見、最新の技術について情報交換を行うことを目的に国際委員会国際対応小委員会が企画し、本セミナーを開催した。日米から全3題の基調講演とパネルディスカッションが行われ、総参加者数は72名であった。

#### (4) P C防災セミナー

平成29年3月3日(金)、中央大学後楽園キャンパス6301教室において、公募研究委員会「大規模自然災害に対応可能なP C構造に関する研究委員会」主催の「P C防災セミナー」を開催した。過去の大自然災害に関する文献・資料の調査等をもとに各委員が防災施設へのP C構造物の活用を課題に検討してきた成果をテーマごとに全6題の発表を行った。発表内容は講演報告集としてとりまとめ配布した。総参加者数は65名であった。

### 6. 資格認定事業

#### (1) プレストレストコンクリート技士制度

##### 1) プレストレストコンクリート技士試験講習会

平成28年度のプレストレストコンクリート技士試験講習会を、平成28年9月12日(月)、アルカディア市ヶ谷において開催した。受講者は82名であった。

##### 2) プレストレストコンクリート技士試験

平成28年度のプレストレストコンクリート技士試験を、平成28年10月16日(日)に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は316名で、試験の合格者は86名であり、会誌第59巻1号およびホームページに掲載発表した。

##### 3) プレストレストコンクリート技士登録

平成28年度標記試験合格者の登録者は84名で、登録更新者は830名(更新対象者は923名)であった。また、再登録者が34名あり、平成28年度のプレストレストコンクリート技士登録者は合計948名となった。その結果、平成28年度末の有資格者(登録者)は5,589名である。

#### (2) コンクリート構造診断士制度

##### 1) コンクリート構造診断技術講習会

平成28年度のコンクリート構造診断技術講習会を、平成28年4月17日(日)に東京会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター、大阪会場：大阪YMCA国際文化センター、4月16日(土)福岡会場：天神ビルにおいて開催した。受講者は、東京会場が128名、大阪会場が100名、福岡会場が62名であった。

##### 2) コンクリート構造診断士試験

平成28年度のコンクリート構造診断士試験を、平成28年7月10日(日)に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。



受験申込者は327名で、試験の合格者は124名であり、会誌第58巻6号およびホームページに掲載発表した。

3) コンクリート構造診断士登録

平成28年度標記登録者はコンクリート構造診断士124名、コンクリート構造診断士補6名であった。コンクリート構造診断士の登録更新者は247名（更新対象者は280名）で、平成28年度末の有資格者（登録者）はコンクリート構造診断士1,083名、コンクリート構造診断士補13名である。

4) 国土交通省制定「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格」認定

国土交通省が制定した「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録規程」に基づき、「コンクリート構造診断士」が技術者資格登録簿に追加登録された（第3回登録：平成29年2月24日、①「トンネル」の点検業務を行う担当技術者（品確技資第191号）、②「トンネル」の診断業務を行う担当技術者（品確技資第195号））。

○事業報告に係る附属明細書について

平成28年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

平成29年4月

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会